



くらしを支える 移動通信システム

総合通信基盤局電波部移動通信課移動体推進係長

黒川 理雄

KUROKAWA Michio

平成21年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電波部電波政策課
平成23年 7月 情報流通行政局放送政策課
平成24年 8月 総合通信基盤局総務課
平成26年 8月 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成27年 8月 現職

『新世代の情報通信技術を届ける』

1979年に携帯電話サービスが開始(当初は自動車電話でした。)されてから数十年、スマートフォンが登場してから約10年。携帯電話の技術は世代を重ね、通話だけでなく、ネットや動画視聴等を気軽に移動しながら利用できるような時代になりました。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック、その先のIoT時代を見据えて、産学官が連携して新世代の移動通信システムの導入に向けた議論も進められています。

一方で、移動通信システムは、限られた資源であり空間を伝搬する電波を使用して通信をしています。このため、誰もが自由に電波を使用して通信をすると混信が発生してしまいます。

私が所属している移動通信課では、国民の皆様が、日々進化する移動通信システムの進化を身近に感じ、ビジネスなどにも活用できるよう、事業者やメーカー、研究者の皆様の意見や諸外国の状況も踏まえて、国際標準化や技術基準作り、統一された利用の仕組みづくりに取り組んでいます。

『くらしのなかに情報通信』

情報通信は技術革新が早く、また、近年ではその影響は多岐にわたります。現在議論されている新世代の移動通信システム(5G)は、医療、交通、農業等様々な分野で多様な形でユーザの皆様にご利用されることが想定されています。

『くらしのなかに総務省』。総務省のスローガンです。携帯電話の契約者は1億数千万。日本の人口を超え、さらに利用は増大するでしょう。今以上に、情報通信技術は多様な社会活動の基盤となり、国民の皆様のくらしを支えて行くことが期待されています。

上でも書いたとおり、総務省では、多くの人たちと関わり、意見を伺いながら、日々発展する情報通信技術が国民の皆様のくらしに届けるための制度を作り運用しています。その結果をユーザの一人として自身のくらしのなかで実感できることが魅力の一つです。新たに生まれる技術にアンテナを立て、より活気ある社会の実現を志す皆様、総務省で新世代の情報通信の制度作りに一緒にチャレンジしてみませんか。



Private Time

花見や七夕など四季折々に理由を作って、職場の皆さんとお酒を楽しんでいます。が、最近は体重が。。。

このため業務後や週末は、リフレッシュと健康維持をかねて、ジムに行ったり散歩したりして体を動かしています。

Some One Week

Monday

先週末までの業務の進捗、今週の予定をラインで共有。事業者から新しいシステムの導入の相談。

Tuesday

既存のシステムの運用状況について事業者からヒアリング。現状の把握&今後の業務に活用。

Wednesday

事業者が実験中の新しいシステムを視察。実物を見るのが重要。開発中の新システムについても情報収集&意見交換。

Thursday

新しいシステムを使用する無線局の免許方針について論点整理。課題について事業者と共有。



Friday

免許方針案を策定し、課内説明。指摘があった事項について引き続き検討。